

太陽光発電などエネルギー事業のさらなる深化・拡大を

（株）サニックス

FIT制度による電力買取価格の下落や再生エネ普及により、太陽光発電は「売る」より「使う」時代に入っている。

衛生管理、産業廃棄物リサイクル、再生可能エネルギーなど「環境」を軸に事業展開する（株）サニックス（福岡市博多区、宗政寛社長）では、自家消費型の太陽光発電システムに注力。製造から販売・施工・メンテナンスまで、一貫したサービスの提供を強みに、2009年の事業参入以来、住宅用・事業



「三井ショッピングパークらぼーと福岡」屋上の太陽光発電設備

用合わせて、約4万8千件の太陽光発電システムを販売・設置してきた（22年3月末現在）。これらの経験・実績で培ったノウハウを生かし、脱炭素社会の実現に向けて、再生エネの普及拡大にまい進している。

「らぼーと福岡」の太陽光発電設備を施工

4月25日、旧福岡市青果市場跡に開業した大型商業施設「三井ショッピングパークらぼーと福岡」。その屋上に設置された太陽光発電設備の施工をサニックスが請け負った。この発電設備は、九州電力のPPA※として導入されたもの。サニックスでは遠隔監視システムを利用し、発電量などのリアルタイムなデータ提供や異常察知時の点検も担っており、今後もPPA事業における施工請負にも力を入れていく。

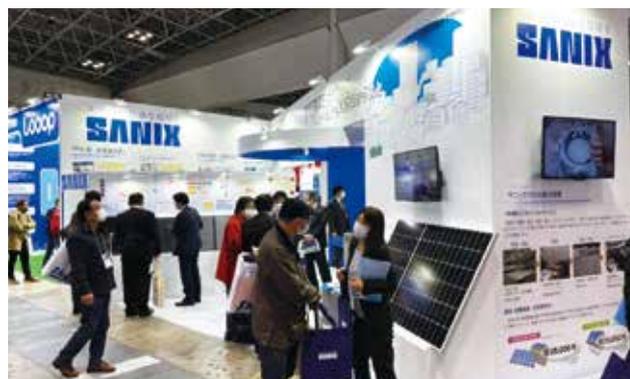
また3月下旬、東京のビッグサイトで開催された「脱炭素経営EXPO」にも自社の自家消費型太陽光発電システムやオンサイトP

PAを出展。自家消費型太陽光発電の電気代削減、災害時の電力活用、遮熱効果、脱炭素経営への寄与、またオンサイトPPAの設置にかかる顧客の初期費用がゼロというメリットを会場でPRした。

自家消費型太陽光発電については、同社が全国15カ所に展開する、廃プラスチックを燃料化する工場にも設置を進めている。自社工場への導入をモデルケースとして実績を上げ、得られたデータを太陽光発電事業に活用することや、循環型社会を目指す同社が自らの事業活動の上でも環境負荷を低減することを目的としたもので、昨年度は8工場に設置を完了（約820kW）、今後も自社工場や自社施設への導入を進める。

太陽光発電全般をサポート

サニックスでは昨年5月「長期ビジョン2030」を策定、2030年度をゴールとした各事業の目標を設定した。その中で太陽光発電のSE（ソーラー・エンジニアリング）事業と新電力事業から



「脱炭素経営EXPO」の同社ブース

なるエネルギー関連事業については、国のエネルギー政策に伴い再生可能エネルギーのニーズがさらに高まることを見越し、同事業を成長事業の一つとして位置付けている。

同社では太陽光発電や蓄電池などのさらなるコストダウンによる導入促進を目指すとともに、太陽光発電を恒久的なエネルギー源として継続させるため、従来から取り組む製造・設置に加えメンテナンスや発電所設備および部材のリユース・リサイクル等あらゆる運営面をサポートできる体制を構築していく。

※PPA: Power Purchase Agreement(電力販売契約)の略称で、発電事業者(PPA事業者)と需要家の自家発電型の電力購入契約。PPA事業者が、需要家(企業、公共施設等)の敷地内への太陽光発電設備の設置・運用・メンテナンスを行い、発電された電気を需要家に供給する仕組み